

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：大乘寺の薬師如来坐像				

所在地	吉野郡下市町仔邑904				
所有者(取材 対応者)名	仔邑区自治会(大乘寺 阿部憲雄住 職)(個人情報守秘)			連絡先	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：下市町教育委員会				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	薬師如来坐像 1975(昭和50)年11月1日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	この時代の特長をよく表し、保存状態も良好であること。また、元大乘寺本尊であり、山号の由来となっていること。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	薬師堂には防火設備は設置されていないが、日常的に施錠されている。すぐ側の本堂は、嚴重な防犯・防火設備が整えられている。	特に問題は無いと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	鹿や猪による近辺の食害は多いが、今のお堂への被害は無い。最近、熊の目撃情報もあったとのこと。	近年、動物がどんどん人里へ下りてきて、植物の生育などに影響を及ぼしているのを残念に思う。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	薬師如来坐像が安置されている薬師堂は、大乘寺の門前にあり、仔邑区自治会の管理となっている。しかし実際は、大乘寺のご住職が薬師堂の鍵を管理され、拝観希望者への対応もされている。2005(平成17)年に、大乘寺のご信徒を中心に「大乘寺本堂修復実行委員会」が設立され、2年がかりの大修復工事が行なわれ、2008(平成20)年に、親鸞聖人750回大遠忌法要と共に落慶法要が営まれた。その後、仔邑地区全体の力で薬師堂の修復も行なわれたとのこと。信徒の方々をはじめ、地域の皆さまの厚い信仰心でしっかり守られている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

大乘寺は16世紀初め頃の開基より、現在のご住職で20代目。21代目も決まっており、地域の皆さまのご協力もあり、文化財保護にも当面心配無い状況だと感じる。かつては、大乘寺周辺の山にヤマユリやモクレンが自生していて「花山」と言われていたそう。ご住職夫妻の丹精により、20年ほど前には寺域斜面を200株ほどのヤマユリが彩っていたそう。しかし、近年イノシシによりすっかり荒らされてしまったとのこと。これは、日本中で対策を考えなければならない問題だ。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：大乘寺の薬師如来坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 薬師如来坐像

文化財（正面写真）	文化財（安置状態の全体写真）
 <p style="text-align: center;">薬師堂</p>	 <p style="text-align: center;">大乘寺本堂内陣</p>
 <p style="text-align: center;">文化財の由緒などを記入</p>	 <p style="text-align: center;">所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>像高86cm、桧の寄木造りの薬師如来坐像。量感のある円満なお顔で、衣文の彫り浅く、藤原中期以前の造像と考えられる。元は大乗寺のご本尊として本堂に安置されていたと思われ、薬師如来にちなむ「瑠璃光山」の山号が号されている。真言宗から浄土真宗への改宗により、門前の薬師堂に移されて伊予区が管理しており、1月第一日曜日に法会が行なわれる。1990(平成2)年に京都の仏師の手により大修復された。</p>	<p>高取城主植村勝之承が出家し、創立したという言い伝えがあるが、1889(明治22)年の十津川大水害の折、資料が流出したため真偽は不明。蓮如上人が吉野への道中に立ち寄られたことにより、江戸時代初期に真言宗から浄土真宗に改宗。山門は談山神社から移築されたものと言われている。2度の本堂修復を経て、2007(平成19)年から2008(平成20)年にかけて、本堂、山門、鐘楼、周辺の大修理が行なわれた。</p>